

天文台発 ぽらりす

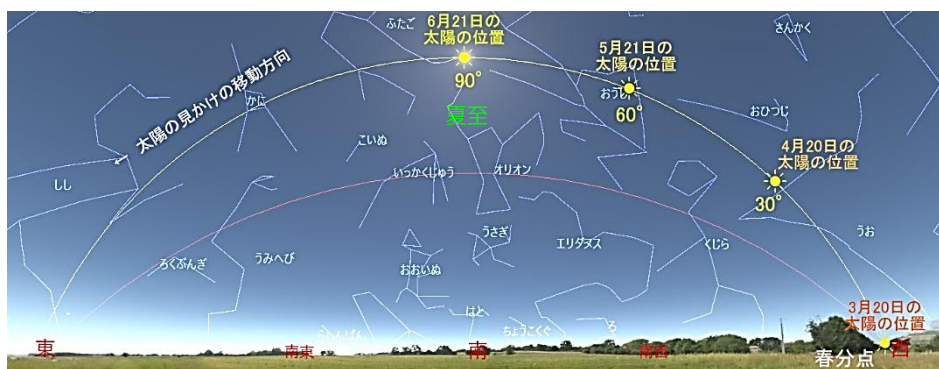
「2026 年7月号/毎月初めに天文台職員が情報発信します」



夏の夜の始まり

見かけ上、春分点から東へ進んだ太陽は、6月21日に夏至(太陽黄経90度)を迎えました。7月中旬の札幌では昼が15時間もあります。一方、夜はわずか4時間半ほどしかありません。昼と夜の間には空が薄明るい状態の「薄明」という時間帯が朝晩それぞれ2時間くらいあります。

7月の夜は薄明が終わる21時頃から始まります。短い夏の夜に星空の旅に出かけましょう！

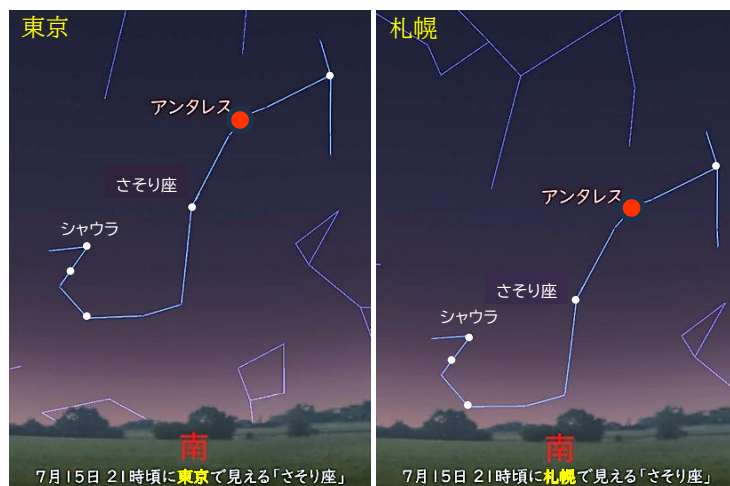


StellaNavigator/アストローツ にて作成

銀河鉄道の夜 星空本線(夏の星座線)

「好きな星座は？」と聞かれると、**さそり座**を挙げる人は少なくないでしょう。昨年の12月に札幌市青少年科学館のプラネタリウム祭りで実施した「88 星座☆総選挙」では、天空の狩人オリオン座を抑えて**さそり座**が5位になりました。「夏の星座」の中では、堂々の1位です。そう聞くときっと多くの人は、星の本に載っているような大きく細長いSの字をした**さそり座**が、空で飛び跳ねている姿をイメージすることでしょう。しかし、ここ札幌は東京よりも緯度が高いため、毒針が付いた尾を地平線に擦るように**さそり座**が南の空を移動します。特に低空の星は光害の影響を受けるため、市街地でこの星座の全景を捉えるにはちょっと想像力が必要です。

私シマクロの「銀河鉄道の夜 星空本線(夏の星座線)」の最初の駅は、「**さそりの停車場**」です。この駅には**赤い駅舎灯**が灯っています。7月の21時に南方向(高度約20度)で赤く輝く星を探してみてください。**さそり座**の1等星「**アンタレス**」を！この星を見つけることができれば、**さそり座**を構成する5個の2等星のいくつかは見えるかもしれません。**さそり座**の全景が見えるのはわずか3時間半ほどですが、暗い場所であれば、宮沢賢治が「双子のお星さまのお宮」の1つ**シャウラ**(2等星)が見えることでしょう！(By シマクロ)



StellaNavigator/アストローツ にて作成

☆7月の夜間公開(予約は不要です。公開時間内にお越しください。)

24日(金)~26日(日) 20:00~22:00 夏の星座

☆休台日は 6日(月)、13日(月)、21日(火)、27日(月)です。